

活動名	団体名称	活動テーマ	活動の目的
笑顔いっぱい！びわこ☆1・2・3キャンプ in 2018春	びわこ☆1・2・3キャンプ実行委員会	子どもの健全な育成を支援する活動	⑦自然災害で被災した子供を支援する活動
	■申請書の活動概要<150~200字>		■申請書のスケジュール
	東日本大震災と福島第一原発事故の被災地の小・中学生を対象として、学校の春の長期休暇を利用して共同生活をしながら自然体験を中心とした野外活動を実施。異年齢集団での共同生活やプログラムの企画、運営に参加することを通して、協力する喜びを知り、また他者を思いやる心、自ら考え行動する力を育てる。自然体験を通して五感を培うとともに、身の回りの生き物や環境について関心を持つ機会を設ける。		・9月~8月で月1回以上のスタッフミーティング(キャンプ中は毎日) ・報告書の作成 ・毎月のオーガニックマーケットでカンパとボランティアの募集チラシ配布 ・1月に報告会実施 ・3月24日~4月4日で春キャンプ実施
		■各スケジュールごとの活動内容	
		・スタッフミーティングではキャンプの企画立案と活動内容の検討、報告書の作成や報告会の計画と実施等を行う。 ・オーガニックマーケットではキャンプの紹介とカンパ・ボランティア募集チラシの配布を行う。 ・2017年に行ったキャンプの写真や感想を載せた報告書を作成。 ・報告会ではキャンプの報告のほか、福島からの避難者の方に被災地の現状について、また、子ども脱被ばく裁判に関わっておられる弁護士から子どもたちが置かれている状況についてお話してもらう。 ・春キャンプでは12日間の共同生活と自然体験中心の活動。(詳細は下記)	
■活動目標	原発事故被災地の子どもたちを対象にした、豊かな自然の中での心身両面への具体的な支援活動を通じた健全育成と、将来の担い手である子どもたちの自然環境や健康に対する関心を高めること		
■長期成果	・参加の子どもたちは放射能のない環境で心身を解放することができ、長期の共同生活を通して自主自立が促され、自尊心が育つ。 ・自然体験や野菜の収穫体験、毎日の食事の手伝い、食育のお話会を通して、自然や自分の食、健康に関心が持てるようになる。		
■活動風景	  		
	風を切ってサイクリングって気持ちいい！ 高島市マキノ町 メタセコイア並木で	ちょっと高いところからお花見 びわ湖こどもの国で	みんなで摘んできたつくしのはかま取り 一本一本根気のいる手仕事です
■上期の成果と下半期に向けた改善点		■実施体制	
<上半期の成果> ・2017年の春・夏のキャンプ報告書には子どもたちの感想だけでなく、保護者の感想も載せることができ、内容の濃いものに仕上がった。 ・1月に開いた報告会にはこれまでに参加して下さったボランティアや支援者のみなさんの他、一般市民の方も併せて約50名が参加して下さった。キャンプの報告だけでなく、福島からの避難者の方や子ども脱被ばく裁判に関わっておられる弁護士から話を聞くことができ、保養事業の重要性を改めて伝えることができ、スタッフも気持ちを新たに今後の保養事業に取り組む決意ができた。 ・3月24日から4月4日までの期間行った春キャンプでは、総勢57名の子どもたちが参加し、大きな怪我や病気もなく元気に活動することができた。元参加者の高校生が子どもたちの相手のみならず、キャンプの運営でも活躍したことで、参加者の中学生や高学年の小学生の良き手本となった。 ・参加者の子どもたちにキャンプの初日と最終日にアンケートを実施したことで、子どもたちの関心と達成感をきめ細かく知ることができ、数値に表すことができた。またその結果から、今後のイベントの持ち方についての検討課題が明らかになった。		<スタッフミーティング> 毎月1回以上、スタッフ7名とボランティア協力者数名が集まり、キャンプに関連した事柄を検討し、実行した。	
<下半期に向けた改善点> ・キャンプ実施の際には子どもたちと思いっきり遊べる大学生や高校生ボランティアの存在が欠かせないが、地元滋賀県の学生の協力が少ないため、県内の高校や大学へ早めにボランティアの募集をかける。 ・2018年の春キャンプで実施したアンケートを元に、夏キャンプのイベントの持ち方を検討し、子どもたちがより関心を持って活動に取り組めるようにする。また、アンケートの内容も精査し、子どもたちが回答しやすく、記入しやすいものにする。 ・開催地元の協力は回を追うごとに増えているが、春キャンプは期間も短いことから呼びかけが十分にできずイベントへの参加はまれなので、参加や交流がしやすい形を検討していく。		<報告会> 資料の準備と会場設営はスタッフ。お話の講師は福島県浪江町からの避難者の方と、子ども脱被ばく裁判の弁護団の弁護士。ボランティアで協力していただいた方々、カンパ等でお世話になった方々に参加を呼びかけ、オーガニックマーケットの来場者で関心を持って下さった一般の方々等にも参加を呼びかけた。	
		<春キャンプ実施中> 常駐スタッフ3~4名、常駐ボランティア、短日ボランティア含めて延約40名が子どもたちの見守りと調理、生活管理、危機管理を担当。 イベント内容:オリエンテーション、ドラム缶ピザ作り、サイクリング、食育のお話会、温水プールと温泉、味噌作り、野草摘み、餅つき、エイサーとライブコンサート、ちぎり絵ワークショップ、びわ湖こどもの国、体育館、お土産お買い物、大掃除、お楽しみ会 ・県と開催市とその教育員会、社会福祉協議会には後援いただき、公共施設の利用等で支援していただいた。 ・よつ葉ホームデリバリー京滋には食材の調達、資材の輸送等で全面的にご協力いただいた。 ・白藤学園には滞在施設を、東洋産業には寝具を特別料金でお貸しいただいた。 ・開催地の自治会のみなさまには送迎や野菜の差し入れ等でご協力いただいた。特に最終日は早朝にも関わらず多数の方が車を出して下さり、滞りなく駅までの送迎が完了した。 ・滋賀民医連には参加者10名の健診でご協力いただいた。	
		<フェイスブックの更新> 通常の更新はスタッフが、春キャンプ開催中は複数の担当者が交代で行った。	
〒520-2314 (住所) 滋賀県野洲市小堤184-1 暮らしを考える会内 (団体名) びわこ☆1・2・3キャンプ実行委員会 (ホームページ) https://www.facebook.com/Biwako123camp/		助成金額 500,000円	
		助成期間	
		H29.9.1~H30.8.31	